

## 第一日目、関心と反復

記憶の原理は“関心”と“反復”の二つで、これを“記憶”の二大原理と言います。とりわけ“関心”は絶対に必要で、そのため、子供に最初で与える漢字は、その子にとって最も関心のあるものを選ぶことが大切です。

例えば、<sup>いちご</sup>苺が大好きという子供だったら、最初で与える漢字に“苺”を選ぶことが最も有効です。こういう漢字は、教えられた途端に目を輝かせてこれを見つめるでしょう。そして、一瞬のうちにこれを頭の中に刻みつけて、その後、その字を見れば「あっ、僕の大好きな“いちご”だ」と叫ぶに違いありません。

さて、そのような、子供にとって最も関心の高い物を表わした漢字を書いたカードを用意したら、これを子供に見せて、「ほら、この字は、お前の大好きな“いちご”という字ですよ。“いちご”、“いちご”と読んでみせ、およそ十秒間ほど見せます。

この時、「さ、お前もこの字を読んでごらん」と言って、子供に読ませ、「はい、よく読めましたね」と言って、子供を褒めてやるのはとても良いことです。

それから一～二分間たって(それまでの間は、親も子も何をしていてもよろしい)先ほどと同じように、十秒間ほど漢字カードを見せてこれを読んで間かせ、読ませてみます。そしてさらに、もう一度、今度は二～

五分間後に、まったく同じことを繰り返してやります。

このように、七分間以内に、十秒間ずつ三回、漢字カードを子供に見せ、教えてやり、読ませてやるのが、私の言う“漢字遊び”なのです。この遊びに費される時間は、わずかに三十秒に過ぎません。「何だ、こんなことか」と言いたくなるようなことです。でも、これが毎日続くと、偉大な効果を発揮するのです。

この“三十秒間の遊び”を一セットとすると、一日のうちにこの遊びを五セットすることが必要です。漢字を覚えるためには、これだけしなくてもできます。しかし、記憶を確実なものにするためには、“反復”が必要なのです。“反復”すること、そのことが大切なのです。

第一セットと第二セットの間隔は、三十分以上、一時間以内が有効です。なるべくそうするように努力して下さい。第三セット以降は、三十分以上経過していれば、何時間後でも結構ですが、一日のうちに五セットしなければなりませんので、余り間をあけることはできません。

こうして、第一日目の“漢字遊び”は、一度に十秒間ずつ三度することを五セットしますか

ら十秒×三×五＝一五〇秒＝二分半というわけで、二分半の時間を必要とします。念のために言いますが、五セットに至らないうちに漢字を覚えてしまって、子供が漢字を見るやいなや、「いちご」と読んでも、第五セットの最後まで、きちんと慎重にやらなければなりません。

ファイル名 : ワークシート

フォルダ : G:¥自宅フォルダ¥著書

テンプレート : C:¥Documents and Settings¥石井峻¥Application

Data¥Microsoft¥Templates¥Normal.dot

表題 : ■万葉仮名

副題 :

作成者 : 石井峻

キーワード :

説明 :

作成日時 : 2007/11/21 10:56:00

変更回数 : 6

最終保存日時 : 2007/11/25 14:24:00

最終保存者 : 石井峻

編集時間 : 744 分

最終印刷日時 : 2008/12/30 17:34:00

最終印刷時のカウント

ページ数 : 1

単語数 : 178 (約)

文字数： 1,019 (約)